

ボランティアスタッフからのメッセージ

メッセージを陣取る中国語マスター

畦田 和弘（あぜっち）

今回、「日中韓環境見聞館」に参加して、まず日本、中国、韓国という東アジアを強く意識したということが、感想としてあげられます。日本も、改めてアジアの一員なんだなあと強く感じました。同じようで違う三カ国、違うようで同じ点がある三カ国。興味は尽きません。その興味をより強くしてくれたのが、万博の貴重な経験でした。この経験を次に生かしていきたいです。

生かし方としては、ノミネーションでしょうか…（笑）。

発信所の地方部隊

天野 香織（てんてん）

万博のボランティアには一期一会がありました。地球の大切さを改めて感じることができました。たくさんのすばらしい仲間を見つけることができました。これからも小さなことから地球の環境を大切にすることを始めたいと思います。

創作屋

儀嶋 まどか（イソジマ）

2005年度最大の環境に関する愛知で行われた莫大なイベントだった。

アナウンサー、呼び込み、盛り上げ役

伊原 香奈子（イハラさん）

日ごろ活動している環境団体とちがう空気に触れることができ、新鮮で、気分転換もでき、勉強にもなりました。今回の新しい出会いと繋がりと学びを、今後にも活かしていけたらいいなと思っています♪

捕まり役屋

井部 暁憲（いべっち）

さまざまな来場者と話をさせてもらったことによって、自分が環境に対してどういった意識をもっているのかということが明確になった。また、多くの人と話をすることで「伝える」というのは一方的に情報を提示するだけではなく、対話をするということによってもできるものなのだと感じました。

へっぽこアナウンサー内山クリステル

内山 恵（うつついー）

とても充実した1ヶ月間を過ごすことができました。環境問題に対して私自身も興味がわいたというのはもちろんのこと、いかにして人に関心を持ってもらえるかということを考えさせられました。また、「コミュニケーションは言語がなくても成り立つ」と言われますが、やっぱり言語がなければ、いろいろな国の人と文化や環境問題について話ができないということを痛感しました。（今は中国語を頑張っています！）万博にいた1ヶ月だけでなく、その後につながるようなステキな経験をさせていただきました！

裏方

浦野 須磨子（すまっち）

すこしの間でしたが楽しくそして勉強になりました、他の解説ボランティアのように、お話をしながら、環境のことが、フツフツとわいてくるので、嬉しかったです。今黄砂が降ってきてます。学校がお休みになる、韓国をおもいだしています。やはり環境は日、中、韓、3つの国でしなればと、つくづくおもいます。言葉は必要

ですがむずかしいです。ナヌン、ダンシラス、サラゲヨ。カムサハムニダ。チュッカハムニダ。だめですね。ミアネヨ。

設営から頑張った

亀井 麻未 (chami chami)

万博にいったから自分に自信みたいなものが芽生えてきましたね。それに、素の自分がチラチラと感じられるようになりました。自分の言葉を使って（マニュアルの棒読みとかではなくて）人前で話すのはかなり苦手でしたが、レポーター役やクイズのアシスタント？を任されたとき、自然と言葉がでてきたときは、「あ！今、自分ものすごい楽しいんだな～」というように・・・気が付かないうちに楽しんでいて自分を発見したときはちょっと驚きました（笑）。

見聞館のジュゴン少女

川端 慶子 (けいこ)

発信所のスタッフとして万博に関わったことで、自分が今まで知らなかった世界を見ることができた。様々なことを学び、素敵な人達と出会えた。この出会いと、この経験は私にとって本当に貴重なものとなった。万博で終わるのではなく、これからも何かしらの形で活動していきたいと思う。

催事担当・事務局担当

姜 咲知子 (いえじん)

普通の人に、NPOとか市民活動とか、ちょっと小難しい社会問題とか伝えるってことの大変さ、でも伝わった時の楽しさを学びました。あとは、ボランティアの皆さんの一人一人の個性や特性に感心しました。集まればいろんなことができるね！たった一人ではできないことも、仲間が増えればできるって当たり前のことだけど改めて実感しました。みなさんありがとう！

動物好き平社員

工藤 牧子 (まっきー)

万博に参加した事のすべては、自らの為になりました。ここから与えられたことを、人に伝えたり、小さい事でも続けていってさらに自然を好きになりたい！

折り部長

熊谷 有理 (部長)

偶然インターネットでボランティアの公募を見つけて、ほとんど飛び入り参加で手伝った一週間だったが、個人的に様々な活動をしているスタッフの方々と出会い、新しいつながりをつくることができた。また、来客（特に小さい子供たち）への対応は今まで経験したことがなかったので、とてもいい勉強になった。ここで得た刺激を忘れず、将来へつなげていきたい。

9-Dの筋肉MC、クイズ100人MC：せき(んに)くち ひろし

虎頭 保尚 (コトゥー、上腕虎頭筋)

自分の視野が狭くなっていたことに気付き、もっと幅広く目を向けることの必要性を感じた。また、人と接すること、人に伝えることの面白さと難しさを再認識できた。かなり個人的な意見にはなるが、青年海外協力隊員として現地で出来ること、協力隊後に自分がしたいことをじっくり考えることが出来た。今回の経験は考えるきっかけとして活かすことが出来たとともに、実際の活動にも多めに活かせると考えている。

炎の呼び込み&クイズ担当

佐藤 幸恵 (さとーさん)

今回のような経験は、今後の人生の中でもう二度と体験できないのではないかと思います、とても貴重な体験をさせていただいた、と今改めて感じている。個人的には環境教育に興味を持てたことが一つの大きな収穫といえるだろう。これから学校教育に携わる（かもしれない）一人の人間として、環境についてこれからもっといろいろ

な知識を増やし、子どもたちに伝えていきたいと思う。また、昔の子どもに比べて、今の子どもたちは環境に対する意識が高いというアンケート結果があった。パピリオンに来てくれた子どもたちが、私たちが伝えたかったことをほんの少しでも思い出してくれたらいいな、と今思っている。

また、ボランティアスタッフの方々の環境に対する意識の高さに圧倒された。発信する側がまず行動することが大事だということを強く感じた。そして、この経験を身近な人にどんどん伝えていきたい。

愛くるしい動物エンターティナー

杉本 千鶴 (ルンバ)

本当に参加してよかった。万博ボランティア中、不思議と毎日優しい気持ちになっていた自分を思い出します。青い空、お客さんの笑顔、発信所のみなさんの頑張っている姿、ビーググッドカフェの庭の花。。。そういった温かいもの、優しいものに包まれていたからこそ、私の心はあんなに穏やかでpeacefulだったんだと思います。「そういったものを守りたい。」それが、あたしの環境問題への関心につながっていたんだな、と改めて実感することができました。「私にできることは、なんだろう」「ここからはじまる」地球市民村が与えてくれたこのキーワードこそが、今のあたしのテーマとなっています。みなさん、地球市民村に感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。

絶滅危惧種

高橋 徹志 (タカハシ)

これを書いている時点でもう2ヶ月前になっちゃった万博。1年後はきっと1年2ヶ月前になってるだろう(当たり前)。いろいろ思い出に残ったけど9.11アホばか総選挙には4年前よりも最低のコメディを見ている気分になった。翌日の中日新聞に『衆愚政治』の文字が踊ってたけど、何でそれが選挙前にできなかったかな。ジャーナリストを志す者として気になった。世の中(マスコミ)には虚構の『対立軸』がいっぱい作られてる。『ガソリンかハイブリッドか』とか『自民VS民主』『官から民へ』とかも典型的。日本では知識層、良識派もころっと騙されちゃうのが悲しい。だからこそ発信所みたいな、オルタナティブな存在に価値があるんだと思う。万博はお子様の主たる相手だったからどこまで伝わったかはわかんないけど、これからは社会全体に知られざる事実を伝えられたら。

コーディネーター(クイズプログラム、設営 etc.)

富田 行一 (トミー)

21世紀最初、そして日本では当分行われないであろう万博に、出展者として関わり、参加できたことに深い意義と感謝を覚えます。ご来館者(環境メッセンジャー)の皆様、他の出展団体の皆様、市民村事務局の皆様、多くの係員の皆様、そして発信所の関係各位(3カ国)&ボランティアスタッフの皆さん、どうもありがとうございました!クイズプログラムでの掛け合いを通じて、ふだんの生活において、どんな言葉があふれ、それが人にどういう影響を与えているか、考えてみたくなりました。まずは自分から、言葉の持つ重みや影響力をじっくり考えながら「発信」することが重要ですね。

発信所の妹的癒し担当

西郡 葉子 (西郡フラッパーチーノ葉子)

今回の発信所の万博を振り返ってみると、準備はすごく大変だったなあ、出展中はいろいろと悩むこともあったなあ、総合的にはものすごく楽しくて感動的だったなあという感じです。今まで知らなかった環境問題について知り、私たちにできることを考え、自分の思いをどうやって人に伝えるかを悩み……すべてが貴重な体験でした。来場者の方が熱心に話を聞いてくれたり、展示内容に共感してくれたりした時は、今回の活動に関わることができてよかったと実感する瞬間でした。活動を通して、今まではなんだか特別な人達がやっていることだと思っていた「環境保護について考えること、それを行動に移すこと」が自分生活の中のととても身近なところにあることに気が付きました。これからも力まずに続けていけるエコライフを送りたいと思っています。

ブース設営の手伝い、韓国ゲストの初期アテンド

根本 真嗣 (ねもっち)

子どもたちの関心が高いことが印象的であった。一方で商売を営む大人、万博に出展できなかった悔しさとインターネットに対するもどかしさをもっているように見受けられたが、その方から「もっと威勢良くやれよ」と複雑な感情で言われたことは忘れられない。

客寄せパンダ

原田 卓 (すっちゃ)

来場者としてではなく作る側として参加して、本当に良かった。「伝える」ことの楽しさと難しさを感じ、子供の無邪気さに触れて心が洗われ、「想い」を言葉や態度や表情に込めて伝えることを体験できた。今後自分が「環境」というキーワードにどう関わってゆくか(=どう自分を表現してゆくか)を考える際の一つの尺度を持つことができた。ここでの経験は僕の「これから」に多大な影響を与えるだろう。

京都からの参加者

日和 小春 (こはる)

はじめはお客様を楽ませることができると、不安でいっぱいでしたが、何よりも自分やみなさんとまず楽しんでできたこと、そしてお客様も笑顔でいっぱいになったことは本当にうれしかったです！

全体統括

廣瀬 稔也

地球市民村出展30ユニット中、一番、弱小団体で、25日間の出展をやりきることができるのだろうか…という不安もありましたが、参加してくれたボランティアの皆さんや、協力してくれた団体・企業のみなさん、そして真剣にプログラムに参加してくださった来場者の方々のお陰で、25日間を無事に乗り切り、予想以上の成果をあげることができたと思っています。本当にありがとうございました。

アカツラヘラサギ

藤田 文枝 (ふーた)

来てくれたすべての人に「伝える」という事は簡単な事ではないのだと改めて気づかされました。こちら側が伝えたい事すべてを受け取ってもらえなくても、何か1つだけでもいいから、伝わればいいな！と思いました。

関西からのエンターテイナー

三原 重央 (しげっち)

現在は東大阪で小学校の講師をしております。万博での経験を活かして子どもたちにいろいろ伝えて行きたいです。

IT担当

水口 絵里子 (かえる)

特に環境に興味がそれ程無いと思う人たちに環境に興味を持ってもらうことの難しさを感じた。あとはやる人が楽しんでやるということは大事なことだと思った。地球市民村のキャッチコピー「私にできることはなんだろう」、を本当に考えて実践するひとつのきっかけになったと思う。

謎の中国人

山崎 求博 (やまちゃん)

事前準備から当日まで、あまり手伝えませんでした。東アジア環境市民会議では中国や韓国の懐かしい面々に会えて良かったと思います。会議の進行が下手なので、かなり疲れてしまいましたが…。もっとアジアに近づきたいと思う今日この頃です。

統括マネージャー

山本 千晶 (ちあき)

商業イベントの実施と自然環境の保全という対立を超えることのみならず、「万博」というものに向き合う自分の姿勢そのものも問われ、煩悶もありましたが、いろいろと良い経験ができました。会期中にパビリオンを訪れてくださった皆様をはじめ、関係者の皆様、そして、知名度も体力も組織基盤もしっかりしていない発信所にボランティアに来てくれたみんな、ありがとう！

この他、下記のみなさんにもお世話になりました。ありがとうございました。

荒井佳奈子、河野敦、澤田奈々恵、重富大輔、鈴木麗、滝藤由貴、都築俊晃、羽田野孝

◎中国から

周玲（綠色北京 事務局長）、姜晋如（東亜環境情報発信所）



ありがとう

謝謝

감사합니다